

擦り切れることのない財布 ルカ12:32~40 / 李正雨師

社会科学によると、人間の経済活動は人間の誕生と同時に始まったそうです。人間は狩猟時代を経て、農業、遊牧、牧畜時代に発展しましたが、時代が発展すればするほど、経済活動は重要な位置を占めてきました。そしてこの経済のために人間は多くのことを行ってきましたが、その一つが略奪と戦争です。農業と牧畜には、多くの時間が必要です。土地を耕し、農作物を取り入れ、家畜を飼って肉や牛乳などを得ることに、人の手間がたくさんかかります。しかし、奪うことには多くの時間や手間がかからないでしょう。それで、古代の戦争はほとんどこのような財を占めるための戦争であり、強い人は弱い人を略奪しました。このようなことが起きると、人々は集まり始めました。自分のものを守るために、あるいは他人のものを奪うために人々は集まり、これは、多くの部族や国が建てられたきっかけになりました。そして集まった人々の中では、いろいろな経済活動が生まれました。自給自足ではなく交換経済が発達し、経済は、人にとってより重要なものになっていきました。

旧約聖書でも、このような経済について書かれています。アブラハム、イサク、ヤコブの部族生活を通して、私たちは、当時の人々がどのように経済活動をし、どのように暮らしていたかが分かります。彼らも自分のものを奪われたり、他人のものを奪ったりしました。この過程で命の脅威を受けたこともありました。彼らの主な経済活動は、農業と牧畜だったということ、当時イスラエルは、部族でしたが、エジプトは国家を成していたということ、国家の円滑な経済のために人材を登用し、経済を通して自分たちの領土を増やしていったということなど、聖書は過去の経済の流れについても教えています。このように経済は、大昔から人と離しても離せない関係であり、人は、この経済のために命をかけて多くのことを行ってきました。そして今日の福音書は、この経済について私たちがどんな考え方を持たなければならないのか、経済を利用して何をすべきかなどを教えています。今日の福音書32節を見てください。「小さな群れよ、恐れるな。あなたがたの父は喜んで神の国をくださる。」

イエス様は「小さな群れよ、恐れるな」と言われます。これはどういうことでしょうか。先週、私たちは律法を守る理由と目的について御言葉を分かち合いました。律法は守ることにその目的があるのではなく、隣人と共に暮らすこと、互いに愛することに目的があるのだということでした。しかし、当時の弟子たちを含むユダヤ人たちは、この言葉に悟りませんでした。ですから、彼らにとって「愚かな金持ち」のたとえも、理解しにくい御言葉だったと思います。なぜなら、たとえに出てくる金持ちは、律法を破ったり、違法を行ったりしたことはなかったからです。むしろ、経済的には分別がありました。大きな所得ができると、倉を大きく建て、未来を準備しました。これは父の財産を無駄遣いしてしまった放蕩息子と比べられます。所得ができると、未来を準備した金持ちは、賞賛を受けたことでしょう。しかし、金持ちはこのことによって死を迎えることになりました。さらに、イエス様は「何を食べようか、何を飲もうかと考えてはならない(29節)」…「ただ、神の国を求めなさい(31節)」と言われます。これは弟子たちをさらに混乱させ、悩ませたでしょう。

このような弟子たちにイエス様は「恐れるな」と言われます。そして、神様は弟子たちに喜んでご自分の国をくださると言われます。これは、まったく違う世界が弟子たちに与えられるということです。弟子たちが知っていた律法、その律法が通用していた社会ではなく、新しい世界が弟子たちに臨むのです。そうになると、弟子たちは、その世界を通して律法の意味と目的を悟ることになります。金持ちの過ちが何なのかが分かり、彼が将来のために準備したものが命のためのものではないということが分かります。命は、私たちの

人間に手にかかっているわけではありません。もしそうなら、イエス様は私たちの未来のために経済活動をしなさいと言われたでしょう。命はただ神様から来るものです。それでイエス様はこう言われました。33節の言葉です。「自分の持ち物を売り払って施しなさい。擦り切れることのない財布を作り、尽きることのない富を天に積みなさい。そこは、盗人も近寄らず、虫も食い荒らさない。」

多くの人は、自分の未来を準備しています。このために、ほとんど経済的な準備をしています。積立金と年金を払い込み、家を準備します。これらのことは、賢明なことであり、必要なことだと思います。未来を準備した人たちは、他人よりも平安な老後を迎える可能性が高いからです。しかし、このような経済的な準備は、私たちの命を保証してくれるものではありません。私たちが神の国に入らせたり、私たちが永遠の命に至らせたりしません。経済的な平安を与えることはできるかもしれませんが、私たちの霊と信仰には何の利益も与えられないということです。それでイエス様は、私たちの持ち物を売り払って施しなさいと言われます。私たちの未来、それ以上のために、私たちの永遠の命のために、イエス様は施すことを命じます。

私たち人間は、昔から経済活動を大切に思い、そのためには命をかけた戦争も行いました。自分のものを守るために、または増やすために力を集め、部族や国を建てました。このような過程は、私たちにとって重要なことになってきて、まるで私たちの本能のようになってしまいました。しかし、私たちがイエス様の言葉に従って、この経済で隣人を救済すれば、どんなことが起こるのでしょうか。このことは、神様の命令に従うことになります。律法の目的を満足させ、隣人への愛を実践することになります。これによって、私たちの経済の考え方は変わり、私たちの中の食欲は徐々に消え去ることになります。命とその価値について分かるようになります。そしてこのことは、擦り切れることのない財布に尽きることのない富を積むことになるのです。神様が私たちに願われることだからです。また、その結果、私たちのところに神の国が臨むようになるでしょう。神様の御心がこの世でも行われたからです。34節でイエス様は「あなたがたの富のあるところに、あなたがたの心もあるのだ」と言われます。私たちの経済活動があるところに私たちの心があるのです。そこが私たちの隣人のところになりますように願います。

だからといって、イエス様の弟子は、自分の財産をすべて売り払い、隣人を救済しなければならないということではありません。どんな食欲にも注意を払い、用心しなければならないということです。これは簡単なことではありません。目が覚めていなければ、いつも御言葉に従って生きていなければ、私たちの人間は小さな食欲にもつまづきます。それでイエス様は35節で「腰に帯を締め、ともし火をともしないでいなさい」と言われます。まるで主人を待っている僕のように、忠実な僕のように、いつも目を覚まさないでなりません。食欲と心配とこの世の教えから区別されるように、盗人のようにこっそり入ってくる肉体の考えから私たちを守ることができるように、目を覚ましていなければなりません。私たちが神様の言葉に従えば従うほど、神様の御心が私たちの中で成し遂げられるほど、悪魔の誘惑も強くなります。ただ目を覚ましている人だけが、あらゆる食欲に打ち勝ち、擦り切れることのない財布に天の富を積むことができるのです。目を覚まして天の富を積む皆様になりますように。神様が私たちを通してご自分の御心をこの世に成し遂げられますように、主の御名によって祈ります。